

平素より大変お世話になっております。
このたび小社では、標記の書籍を刊行する運びとなりましたのでご案内申し上げます。



森山大道 シリーズ「狩人」より

日本の写真は今、世界の最先端を行っている

ここ30年の間、海外において「日本の写真」の注目が高まり、日本の写真を紹介する大規模な展覧会が盛んに開催されるようになりました。その一方で、日本写真史を概観する書籍の刊行はほぼ日本国内にとどまり、国際的に論じられる機会は十分とはいえないのが現状です。

本書は、イギリス在住のキュレーターで、20～21世紀における日本の美術、写真の研究者であるレーナ・フリッチュが「西洋」の視点と日本文化への深い造詣を総動員した日本写真史の概説書です。日本の戦後写真がリアリズムから始まり、1960年代のVIVOや1990年代の「ガーリーフォト」ブームなど、さまざまな潮流や集団を生み出しながら、今日のような多様な技術を駆使した写真へと発展した歴史を、豊富な写真と丁寧な解説で辿ります。また、森山大道、荒木経惟、川内倫子をはじめ、日本写真史のなかで重要な位置を占める25名の写真家に対して、著者が日本語で行ったインタビューも収録しました。

日本の写真の入門書でありながら、日本の写真家たちの作品世界をグローバルな視点で解き明かした、画期的な一冊。

※本書は国際共同出版として、写真評論家の飯沢耕太郎氏翻訳監修により日本語版を刊行します。



□書籍情報

発売：2018年10月
書名：日本写真史 1945-2017
ヨーロッパからみた「日本の写真」の多様性
著者：レーナ・フリッチュ
判型：A4変形／並製
総頁：288頁
定価：本体5,500円＋税
ISBN：978-4-86152-690-9 C0072

著者：レーナ・フリッチュ

20～21世紀における日本の美術、写真研究者・翻訳家。アンシュモレアン博物館（オックスフォード大学）の近現代美術のキュレーターとして、海外美術の展示や展覧会の企画を担当。以前はテート・モダンの海外美術部門にて、アシスタント・キュレーターとして、アジア太平洋地域の美術品の収集や展示を担当した。著書に『Yasumasa Morimuras "Self-portrait as Actress": Überlegungen zur Identität』(2008年)など。ドイツのボン大学にて博士号(美術史)取得。

日本語版監修：飯沢耕太郎(いゝざわ・こうたろう)

写真評論家。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。執筆活動のほか、写真展覧会の審査、企画等も手がける。

著者への取材、画像の手配などご要望があれば、下記担当までご一報下さい。

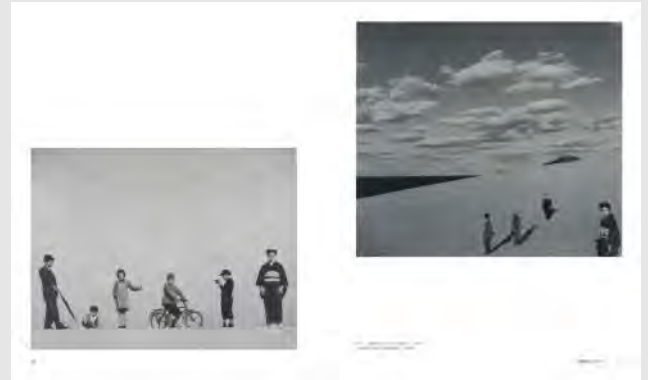
株式会社青幻舎 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-9-4 • TEL 03-6262-3420 / FAX 03-6262-3423

広報担当・新庄：shinjo@seigensha.com

1945年から2017年までの日本の写真を5章に分け年代順に概観し、約70名、200余点の作品を紹介。

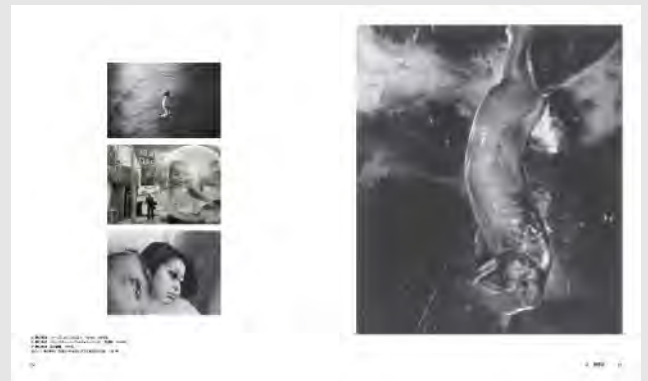
第1章 戦後のトラウマ

1940年代後半から50年代前半にかけて起こったリアリズム写真運動の中心人物である、木村伊兵衛や土門拳らを取り上げる一方で、リアリズムから距離をおき、独自の世界を生み出した植田正治の作品にもフォーカスする。



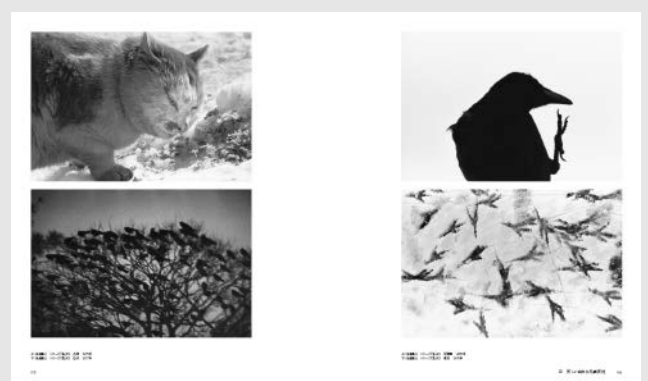
第2章 映像派

戦後の日本の写真の状況が1950年半ばから徐々に変化を始め、写真を客観的な記録ではなく、主観的な表現のための創造的手段とする新しい世代の写真家たちが登場した。その象徴的な存在であるVIVOのメンバーだった、細江英公、川田喜久治、東松照明、奈良原一高らの作品をメインに紹介。



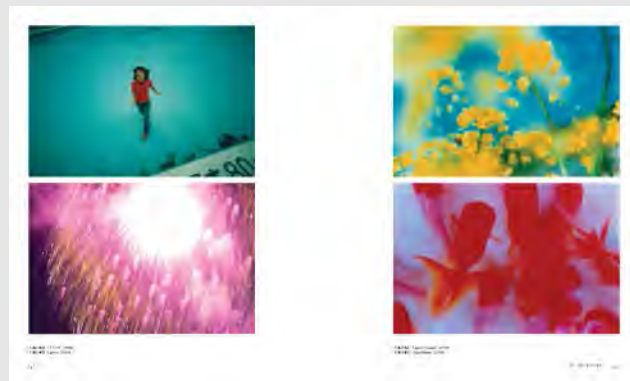
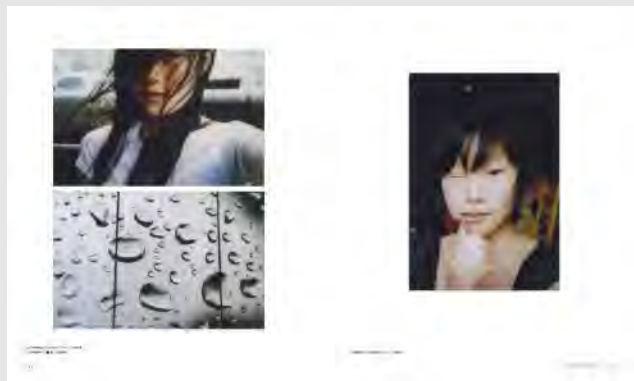
第3章 新しい自由な表現

『プロヴォーク』に参加していた森山大道、中平卓馬、高梨豊を皮切りに、1960年代後半以後から70年代の日本の写真における、様々な新しいアプローチを紹介する。私生活を題材にした荒木経惟や深瀬昌久、石内都らや、「伝統的な」日本をテーマにした、北井一夫や須田一政、土田ヒロミなど。また、コンセプチュアル・アートとして写真を使った大辻清司や若江漢字らの作品も紹介している。



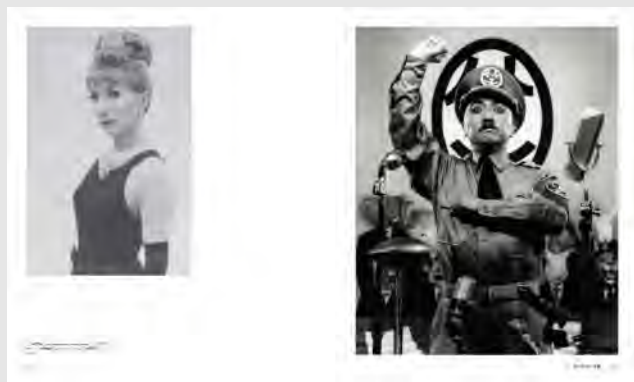
第4章 ガーリーフォト

長島有里枝、蛭川実花、HROMIXの3名の作品にフォーカスして、「ガーリーフォト」とは何かを考察する。



第5章 現代日本の写真

多様で、分類するのがむずかしい現代写真を、本章では1980年代以降に撮影されたものについて①都市・風景・屋内、②静物、③人の三つのテーマに分けて論じる。①では柴田敏雄や畠山直哉、杉本博司、ホンマタカンらを、②では川内倫子や、石内都の後期作品を、③では森村泰昌、澤田知子、鷹野隆大らをメインに、多数の作家が登場する。加えて、志賀理江子などの「新人」写真家についても紹介している。



25名の写真家へのインタビューを収録

著者が各章ごとの時代を代表する写真家たちへ、2016年、2017年の2年間に行ったインタビューを収録。

ほとんどの場合、日本で直接会って話を聞いている。

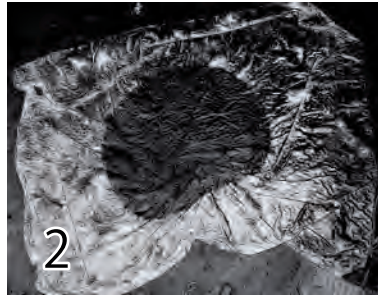
「写真をはじめたきっかけ」というような初心に戻る質問から、制作過程の話、写真に惹かれ続ける理由など、著名な写真家の素直な声をひきだすことに成功している。

<インタビュー収録作家>

荒木経惟 安齋重男 石内都 伊島薫 大森克己 川内倫子 川田喜久治 北井一夫 澤田知子
志賀理江子 柴田敏雄 須田一政 鷹野隆大 土田ヒロミ Tokyo Rumando 長島有里枝 蛭川実花
野村佐紀子 畠山直哉 HIROMIX 細江英公 森村泰昌 森山大道 吉行耕平 米田知子 (順不同・敬称略)



1. 佐藤明 高島三枝子(冷たいサンセット) 1960, Courtesy Satō Ema and Michael Hoppen Gallery, London. © Satō Ema



2. 川田喜久治 シリーズ「地図」より 1965, Courtesy the artist and PGI, Tokyo. © Kawada Kikuji



3. 荒木経惟 シリーズ「センチメンタルな旅」より 無題 1971, Courtesy the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo. © Araki Nobuyoshi



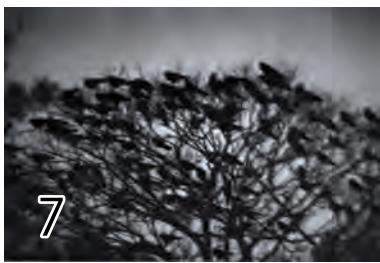
4. 森山大道 シリーズ「狩人」より1972, Courtesy Moriyama Daidō Photo Foundation. © Moriyama Daidō Photo Foundation



5. 細江英公 薔薇刑#6 1961, Courtesy the artist and Akio Nagasawa Gallery/ Publishing, Tokyo. © Hosoe Eikoh



6. 深瀬昌久 シリーズ「鳥」より 雑内 1975, Courtesy Masahisa Fukase Archives. © Masahisa Fukase Archives



7. 深瀬昌久 シリーズ「鳥」より 金沢 1977, Courtesy Masahisa Fukase Archives. © Masahisa Fukase Archives



8. 柴田敏雄 高知県土佐郡大川村2007, Courtesy the artist and Zeit-Foto Salon, Tokyo. © Toshio Shibata



9. 米田知子 シリーズ「Topographical Analogy」より 熱I 1996, Courtesy the artist. © Yoneda Tomoko



10. 米田知子 シリーズ「雪解けのあとに」より 恋人 ドゥナウイヴァーロシュ(スターリン・シティと呼ばれた町)ハンガリー 2004, Courtesy the artist. © Yoneda Tomoko



11. 米田知子 シリーズ「震災から10年」より 教室I (遺体安置所をへて、震災資料室として使われていた) 2004, Courtesy the artist. © Yoneda Tomoko



12. 石内都 Mother's #38, 2002, Courtesy the artist and Third Gallery Aya, Osaka. © Ishiuchi Miyako



13. 米田知子 シリーズ「積雲」より 菊 2011, Courtesy the artist © Yoneda Tomoko



14. 米田知子 シリーズ「見えるものと見えないもののあいだ」より フロイトの眼鏡 ユングのテキストを見るII 1999, Courtesy the artist. © Yoneda Tomoko



15. 伊島薫 シリーズ「死体のある風景」より Otsuka Nene Wears Tuzigahana O Kite #214, 1999, Courtesy the artist. © Izima Kaoru



16. 鷹野隆大 シリーズ「In My Room」より 長い髪がピンクの服にかかっている 2002, Courtesy the artist and Yumiko Chiba Associates, Tokyo. © Takano Ryūdai